

## あの小さな稲がこんなりっぱなお米に

大型コンバインが稼働をはじめると、2年生全員が注目する。

※上郷小学校では事情により児童の顔を表示することをひかえています。



10月13日、上郷小学校2年生が、八方原の稲刈りを見学にやってきました。この日が稲刈りの最後の日です。天候と2年生の学習の都合で、この日になったのです。

この日は農業法人のメンバー7人が大型コンバインによる稲刈りを実演しました。刈り取った稲穂をコンバインのタンクに貯めて、いっぱいになった

ら、自在に動くパイプで送り出します。児童は大部分が機械で処理される稲刈りを見てえどう思ったのでしょうか。「これならやってみたい」と思ってくれたら良いですね。

「稲がりっぱなお米に育っていたのでびっくりしました。きっと八方原の方が良くお世話をしたからだと思えます。給食を残さず食べます。」という感想文がありました。農家の思いをしっかりと感じ取ってくれた感想ではないでしょうか。長い距離を歩いてきてくれた児童や先生に感謝です。

### 秋の訪れ菊の香り

菊の花は、まさに秋を感じさせてくれる私たちには、親しみのある花です。しかし、これを大きく、きれいに整った花に育てるのはそう簡単ではありません。

1班の藤田さん夫妻の庭には大輪の三本仕立てをはじめ、一本の幹から無数の枝に分かれた小ぶりの花の懸崖づくりまで、素晴らしい菊の小宇宙が広がっています。



春から丹精込めて育てられた菊の懸崖

### 学校と連携した防災訓練に参加しませんか

小郡中学校区地域協育ネット協議会（OKネット）では、地域づくり協議会生活安全部会と協力して、学校と連携した防災訓練を2年前から行っています。

緊急時には学校が何らかの拠点として使われることが多いので、日ごろから学校に親しんでいたかどうかというのが、この訓練の狙いの一つです。

今年は、11月6日午前11時に小郡地区小中学校4校が一斉に防災訓練に入ります。地域の方の参加もお待ちしております。最寄りの学校に11時にお集まり下さい。（参加記念品あり）

# お米はどれだけでもできるの

八方原区の稲刈りが終わりました。今年には台風などの強風被害も多くなかったのですが、それでも部分的に稲が倒れたところがありました。また「ひえ」などの雑草も多く見られました。例年になく雑草の多さについて関係者に尋ねると、稲作の難しさを垣間見ることができました。

稲の倒伏については、風の影響もあるけれど、多くは肥料の過剰が原因ではないかという分析でした。植え付け



コンバインから直接トラックの収穫袋に

の際に適正な肥料の散布をするけれど作業の効率上、往復作業がダブってし



どうしたことか直線的に稲が倒れている

まう場合や、方向転換の際のダブリなどがこういうことを引き起こすことになるとの説明でした。

また雑草については、一定期間耐水の除草剤が本来の能力を発揮できるような水の管理がうまくいかなかった場合が考えられるとのことでした。個々の圃場は必ずしも高さが一定ではなく、水の管理も場所場所異なるわけです。

少々の雑草は作業に問題はないとのことでしたが、あの雑草の生育分だけ

## ◆ ◆ 農業から農業ビジネスへ ◆ ◆

ここ数年企業の農業進出が話題になっていきます。政府も「稼ぐための農業」の後押しをしています。

今回紹介するのは農林水産省と日経ビジネス企画へ年収センター主催の「農業参入フェア」です。

経済研究支所のエコノミスト、大手スーパーの直営農場の取り組み、金融機関の農業ビジネスへの取り組みなどが基調講演として予定されています。

農業従事者の高齢化や、耕作放棄地などが懸念される日本農業ですが、農業者の創意工夫を生かし、産業界との連携を促して反転攻勢に出る

稲の生長が阻害されると、考えるべきでしょう。

稲刈りは9月中旬から始まり、10月の中旬で終わりました。作業は乾燥作業を受け持つコントリエレベーターの作業都合に左右されます。地元の都合だけで作業ができない事情もあるのです。

一体どのくらいの量のコメが収穫されているのでしょうか。面積と、10



農業による農業参入は年々増加傾向にあり、政府は、昨年11月に農業競争力強化プログラムを取りまとめた農業政策を改訂し、「稼ぐための農業」の構築が急務と見なされています。農業従事者の高齢化や耕作放棄地が懸念される日本農業ですが、日本の農業者の創意工夫を促し、産業界との連携を促し進める農政の転換が求められています。反転攻勢は可能ではないでしょうか。このような中、この動きを加速させるため、日経ビジネスは農林水産省との共催で主要都市にて「農業参入フェア」を開催します。農業参入・経営の費用やノウハウを得る場であり、また参画企業・市町村との関係の構築を支援いたします。

ことは不可能ではないというのが主催者の考えです。農家イコールコメ作りの図式は今でもありますが、消費者のニーズを正確にとらえ、儲かるビジネスへの転換を狙っているようです。

アール当りの収穫量から推測させていただけました。稲の植え付けは約25ヘクタール、10アール当り450キログラムの出来だったとして、1ヘクタール4500kg、その25倍で112トンとなります。すごい量ですね。

さて稲作が終わりましたので、麦作が始まります。まず水田の排水の改良作業が始まりました。耕うん、畝立て、植え付け作業は続きます。